



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学
 【キーワード】 医薬品、セルフメディケーション、適正使用、健康食品、薬害を含む有害事象
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=255tana>



あなたの知らない“お薬”の世界～適正使用を目指して

研究概要

私達にとって身近な存在である“お薬（医薬品）”が生体内で作用を発揮するメカニズムを理解することは重要です。一方で、目の前の患者さんに対して多くの医薬品の中から最も適切な医薬品を選択し、最善の薬物治療を行うことが医療における目的と考えられます。また、近年では増大する医療費対策として、自分で症状を理解し、適切な医薬品等を選択し、症状を改善させる「セルフメディケーション」が推奨されているものの、実際に適正に行うことは難しいとされています。そこで、身近で興味深い医薬品を適正使用するための理解を目指します。

研究紹介

医薬品等の適正使用に関する研究：健康食品等を含む医薬品等の有効性と有害性について、多彩な研究手法を用いて検証することで、適正・適切な「セルフメディケーション」とは何か、提案したいと思います。

講座テーマ紹介

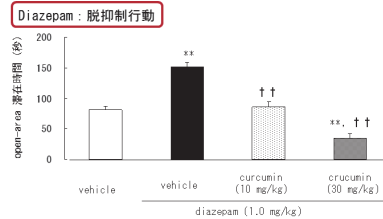
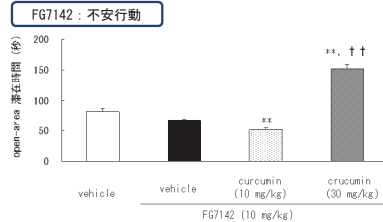
医薬品等の基本的知識の習得と適正使用を目的とした講演・研修会等の実施：

医薬品を一度も服用しない人は恐らくいないと思います。一方で、案外知らない医薬品に関する話題や課題を分かりやすく紹介することで、医薬品の基本的な知識を学び、安心・安全に医薬品を服用できるように学ぶことを目標とします。また、副作用・乱用・薬害等に着眼することも可能です。

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、いわゆる医薬品に限らず、サプリメント等の健康食品や毒物等、応用編も可能なので、例えば、感染症のお薬を中心に話して欲しい、健康食品について話をして欲しい等、ある程度、アレンジすることは可能です。

前臨床研究例～行動薬理的検討



*P < 0.05, **P < 0.01 vs vehicle-treated mice.
 ††P < 0.01 vs FG7142 or diazepam-treated mice.